

「遠隔授業に関するアンケート」総括

はじめに

このアンケートは令和2年度に流行した新型コロナウイルス感染症対策として東邦大学で行われた遠隔授業について、5学部全体として現状を把握し、今後のあり方を考えるために行ったものです。多くの学生の皆さんが回答して下さったおかげで、有意義な情報が取得できました。ここに全体の傾向をまとめます。別紙『「遠隔授業に関するアンケート」結果について』を参照してください。

1 回答率 (2-3 頁)

回答率は全学で約30%、学部間での顕著な偏りはありませんでした。忙しい中で回答して下さった学生の皆さんに感謝いたします。

2 受講環境 (2-3 頁)

ほとんどの学生さんが自宅でPCを使って受講しており、通信環境に大きな問題は無いようです。ただし、少数ですがスマートホンのみでの受講や、不十分な通信環境下での受講もあったようです。受講する上で困ったことがある場合、個別の配慮が可能なこともありますので遠慮なく教員やメディアセンターに相談して下さい。

3 満足度 (4-6 頁)

遠隔講義の満足度については、満足かやや満足との回答が80%を上回りました。教員による講義のフィードバックは一定程度なされており、レポートや課題の負担は全体としては適切かやや重い程度でした。課題の負担が重過ぎると感じられる場合は、教員に相談してみてください。

4 学習時間 (6-8 頁)

学習時間には大きな個人差が見られましたが、全体としては遠隔授業が導入される前と同じでした。復習時間は若干長くなった傾向が見られました。

5 学習到達度 (9-10 頁)

約70%の学生さんが、学習到達目標が60%以上達成されたとの回答でした。目標はある程度高く掲げるべきものであることを考慮すると、妥当な値ではないかと思われます。

6 講義形式 (10-12 頁)

「講義」、「演習」、「実習」と学習の直接体験の程度が上がるほど、対面講義や双方向型遠隔講義の希望が増える傾向がみられました。これは教員向けアンケートの結果とも一致していました。学生、教員ともに、遠隔講義の利便性と対面講義のダイレクト感というそれぞれの方法のメリットを感じていると考えられます。今後も各講義の内容に合わせて対面授業と遠隔授業を併用するのが良いと思われます。

7 資料配布など (13-14 頁)

配付資料の量は適切かやや多いという回答が主でした。多くの学生さんが授業の3日前には配られることを希望していました。紙媒体での配布と電子媒体の送信による配布に対しては、それぞれに長所短所があり、これも講義内容や状況に応じて使い分けていくのが良いと思われま

す。著作権については、多くの学生さんがその存在は知っていましたが、SARTRASなど具体的な運用については殆ど知られていませんでした。

8 全体評価 (15-17 頁)

本学の教育全体や遠隔講義の未来について、7割程度の学生さんが positive に評価していました。遠隔講義の長所短所に関して、教員と学生とで意識は似ていました。お互いに相互理解の重要性を強く意識しており、今後さらに改良されることが期待されます。

別表 学部間比較 (18 頁以降)

全体的に学部間で大きな違いはみられませんでした。違いが見られたものとして、「演習」のあるべき形式として、医学部は遠隔講義、健康科学部は対面講義、が多く回答されました。このことは、「演習」の方法として、医学部では双方向型遠隔講義、健康科学部では資料配信が多く用いられていたことと関係しているかもしれません。いずれにせよ、学部間で遠隔講義の形式割合が異なっていた部分があったにも関わらず、学生さんの満足度には差がありませんでした。

結論

本学の遠隔授業は概ね順調に機能している、と判断して良いでしょう。これは各学部の実情に最適の機材や方法が導入され、教職員全員が力を合わせて遠隔授業に取り組んだことに加え、なによりも学生の皆さんの1人1人が努力して遠隔授業に取り組んだ結果であると言えます。いくつか課題も残りましたが、その多くは遠隔授業に限らない授業の永遠の課題とも言うべきものでした。私たち東邦大学の学生、教職員ともに、これからも自信を持って授業に取り組んでいきましょう。